



令和7年度 豊島区立池袋本町小学校 学校経営方針

校長 工藤 哲士

学校教育目標 夢と志をもち、未来にはばたく池本の子

㊦ 一生懸命取り組む子 ㊧ 健康にすごす子 ㊨ 本気で学ぶ子

1 経営理念

未来を担う子どもたちが、自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成していく必要がある。「豊島区教育大綱」や「豊島区教育ビジョン2025」、「SDGs 未来都市」の具現化、安全・安心な学校づくりに向けた活動等のもと、その基盤となる確かな学力と豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体の調和した人格形成を図るとともに、地域を大切に、国際社会に生きる人材としての規範意識やコミュニケーション能力を育む。

また、指導者である教職員一人ひとりが研修と修養に努め指導力の向上を図る。そして、組織としてそれぞれの役割に力を発揮し協力し、教育目標の達成と教育環境を充実するとともに、個別・最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

さらに、コミュニティ・スクールの実績を生かし、地域や保護者との連携を図りながら、基本的な生活習慣や豊かな人間関係の基礎作りに向けた協力関係、信頼関係を構築し、生活環境の充実を図る。

子どもたち一人一人の個性を大切に、学校・保護者・地域との連携を図りながら、学校教育目標「夢と志をもち、未来にはばたく池本の子」の達成を目指していく。

2 目指す児童像

- すすんで課題に取り組み、表現して学び合う子【知】
- 自己を大切に、きまりを守り、互いに助け合う子【徳】
- 健康的な生活リズムを身に付け、積極的に体を鍛える子【体】

3 目指す学校像

- 児童一人ひとりが明るく元気に学び合う学校
- 保護者や地域に開かれ、信頼され、協働する学校
- 教職員が個性を生かし、協力し合い力を発揮する学校

4 目指す教師像

- 児童の人権や個性を尊重し、寄り添う教師
- 自ら積極的に学び、個性を生かし、組織人として協力する教師
- 教育公務員として自覚と責任をもち行動する教師

5 取組の方向性

(1) 人権教育と豊かな心を育む教育の推進

自分も友達も大切にする心を育成し、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己肯定感を高めながら自己実現を図っていける望ましい人間関係を形成する。規範意識の醸成とともに、豊島区子どもの権利に関する条例などを踏まえ、いじめや不登校のない、児童一人ひとりにとって安全で安心して生活できる居場所を創出する。

(2)個性や創造性を伸ばし、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を育む教育の推進

主体的・対話的で深い学びを実現する個別・最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、思考力・判断力・表現力等を育成する。「分かる喜び」「できる楽しさ」の獲得を目指し、課題解決力を育成する。児童の実態に応じた、丁寧な、根気強い指導の継続的实施による基礎的・基本的事項の習得を図る。

(3)健やかな体の育成と健康教育の推進

体を動かす楽しさを味わう教育活動を展開し、すすんで運動遊びに取り組む教育環境の充実を図ることで、健やかな体づくりを推進する。安全で健康的（食育含）な知識や行動様式を身に付ける指導の充実を図る。

(4)一人ひとりを大切にする教育の推進

特別支援教育コーディネーターを要とする校内委員会の充実・活用、児童一人ひとりの課題を明確にした指導目標の設定と指導の工夫・充実、交流及び共同学習の展開など特別な配慮を必要とする児童への支援の改善・充実を図る。

SC、特別支援教育コーディネーター、学級担任、関係機関等の相互連携など組織的対応による教育相談機能の充実を図る。保幼小中間の円滑な教育の推進に向け合同研修、情報の共有、児童の交流活動により、育ちと学びの連続性を高める取組を実施する。

(5)安全・安心な学校づくりと教育環境の充実

SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」の実現を目指し、セーフティ・スクールの視点及び教科横断的な視点を取り入れた教育活動の工夫・展開、地域と連携した取組の充実など、持続可能で安全・安心な学校づくりや教育環境づくりに向けた取組を実践し、主体性・協働性を高める。児童自らが危険を予測し回避する能力を高める安全教育の充実を図る。

(6)学校と家庭・地域社会の連携・協働と学校経営改革の推進

コミュニティ・スクールとして、地域人材を活用し、地域とつながる教育活動の実践など、地域の教育力を学校教育に生かすとともに、学校・保護者・地域が信頼し合い、それぞれのよさを発揮できる三位一体となった教育活動を展開する。教職員が教育への情熱と使命感をもち、自己の指導力を磨くとともに、組織一丸となって取り組む教育活動を具現化する。

(7)小中連携教育の推進

校舎併設型小中連携校及び豊島区小中連携モデル校として、小中間の課題を共有し、従来の取組の充実や新たな取組の創出などにより一層の円滑な連携を図る。教職員間での連携や日常活動における池袋本町小児童、及び池袋第一小児童、池袋中学校生徒との連携・協働・交流、学校行事における連携交流等について、小中連携、小小連携、併設校連携の在り方を踏まえ、検討・実施する。

(8)教育デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

電子黒板や一人一台端末など ICT を積極的に学習活動や家庭学習等に活用する。情報モラル教育を含めた情報活用能力を計画的に育成する。

また、校務事務についても ICT を積極的に活用し、情報の共有、及び校務の効率化を図る。教員の働き方改革を推進し、ICT を児童・保護者の支援に生かす。